

平成 18 年 9 月 15 日

東京会場

於：湯島聖堂

中斎塾準備フォーラム 講話

中斎塾フォーラムは時事評論をしたいと考えてスタートさせます。

来年の 3 月までは準備フォーラムです。

時事評論をする時には、木内信胤先生から「とにかく仮説を立てなさい。仮説を立てなければ、世の中に言えないよ。間違ったら素直に認めて、なぜ間違ったかを検証しなさい」という事を教えて戴きました。

木内先生のお話の中で一番驚いた事は「ベルリンの壁が崩壊するのはもうすぐだね」とおっしゃられて、実際その 3 ヶ月後には崩壊しました。

それも歴史的なものの見方でいくと、もうそろそろだという事が分かるわけです。

私は前の総選挙の時、「小泉さんが雪崩現象で圧勝するだろう」と、解散が発表になった翌日にロータリーの会長の挨拶でお話しました。

そうしましたら後で、マスコミの方から「なぜそういう事が分かったのですか」と聞かれました。

私は「論語の中に書いてあります」と答えました。

その根拠は、「民は由らしむべし、知らしむべからず」です。

「この言葉を熟読玩味すると、小泉さんが雪崩現象で圧勝するであろうという結論に至りました」と話をしました。

ですから皆さんも、論語の中にある台詞をよく考えて、日常生活に役立てて戴きたいと思います。

会社にお勤めの方は会社の中で、会社経営の方は会社経営の中で、自分が困った時に<こうすれば良い>という判断基準が論語には満載ですから、何か一つ論語の中の言葉を噛みしめて自分のものにすれば、判断基準が身に付いたという事になると思います。

「吾十有五にして学に志し、三十にして立ち、四十にして惑わず、五十にして天命を知る。六十にして耳順う。七十にして心の欲する所に従いて矩を踰えず。」という論語の一節があります。

十代は学を目指すのが当たり前。

二十代は何をやってもよろしい。

三十代は自立をして、自分の収入を得る。

四十代になったら自分の仕事、自分の人生にだんだん迷わなくなってくる。

しかし結構軸がぶれる時代です。

これだと思っても、ぐらぐらと揺れ動きます。

五十代は<自分が一生涯かけて行すべき仕事はこれだ>、<自分がこの世に生まれた使命はこれだ>と自分なりに納得する。

六十代は耳順です。

いちいち反発をしないで相手の話をよく聞いて納得し、頷いて、足りない所や間違っている所を自然とアドバイスできる。

七十代は自分のやりたい事をやりたいようにやって、誰にも迷惑をかけない。

学問は身に付いてしまったらいちいち考えません。

心の奥深くまで沁み込んでいけば、それは血肉になります。

ただ氣を付ける事は、学問も身に付けると固まってしまうから、常に見直しをして脱皮しなければいけない。

そうすると自分の視点はどこにあるか、よく見なければいけない。

そこで民俗経済学が出ます。

先日民俗経済学会の集まりがありました。

そこで私は「今、経済学は日常生活に役立っていますか？」とお聞きしました。

「今の経済学は、日常生活に役立っていると言えないので、経済学とは申しません。」と話を致しましたら、出席している方々皆さんに拍手して戴きました。

今の経済学は経済学ではございません。

役に立っておりません。

したがって本物の経済学者はおりません。

民俗経済学の視点では、グローバルはおかしいのではないが、もうこの考え方は行き詰ったと考えます。

アメリカの考え方で世界を席捲する事は無理です。

これは木内先生や安岡先生の言われていたものと一致しています。

木内先生は、「日本は日本の経済学が必要です。ヨーロッパも一つ一つの国々によって経済学が成り立つ」と言っています。

民俗経済学の方はそれを又、少し発展させて「東京は東京の経済学があり、地方は地方の経済学がある。だからその地域・地域に根ざした経済学でなければならない」という事を提唱し始めました。

これには賛成です。

例えば健康問題の視点から考えます。

日本人の腸は、野菜・穀物を食べるから外国の方より長いのだそうです。

ゆっくり消化して排泄をする。

日本人が本来の伝統的な食物を摂っていれば、健康に良いし肥満体にはならないのです。

沖縄の方の寿命が急激に縮んだのは、肉食に変わったからです。

中村天風先生の台詞に、「殺す時に泣き声をあげる動物の肉を食べてはいけません」とあります。

殺す時に肉が酸化して、人間にとって有害な物質に変わったものを人間が食べているわけです。

泣き声をあげないで死んでいく動物の肉なら、食べても良いという話でございます。

そして旬のものを食べると良いですね。

尚且つ地域で採れたものが良い。

今は物流が広がりましたから、世界各国からあっという間に違う旬のものが入ってきます。

おかしいですね。

中斎塾の眼目は判断基準を身に付ける事ですので、毎回毎回、何か判断基準になる言葉を申し上げます。

ベースは判断の三原則<本質・大局・歴史>です。

何事によらず何か問題があったら、その本質は、何故、何故、何故と追求していけば必ず分かります。

大局は、相手の立場に立てば良いのです。

相手の立場に立てば、色々なものが見えます。

私は先月ロシアに行ってきました。

ロシアに行った理由は、私は2008年から2010年に日本が経済破綻をすと思っていますので、既に経済破綻をした国に行って、現実を見て来たいと思ったからです。

日本でロシアを見ていたら、まるで見えないものがあります。

陽明学は行動哲学ですから、まず行動して自ら体験をしない限り人様には言えないと思

っています。

ロシアに行く時に、課題が二つありました。

一つは、自殺者が相当出ているということですが、実際どれくらいの人数がいたのだろうか。

もう一つは、生き延びた人達は何をやって生き延びたのか、見てみたいと思いました。

明確な自殺者の実数は出ていませんでした。

しかし帰って来て民俗経済学会でソ連を研究しておられる方と話をしたら、その方は寿命から追いかけて、4000万人は死んでいると言っておられました。

ただ現地では、1000万人単位で死んでいるという実感はありました。

日本は自殺者年間30000人以上と言われますが、桁が違います。

食べるものがなくなって、酒を飲んで陶然としてあの世に行ったというのが実態だと感じました。

生き延びた人達は5つくらいのパターンだったということです。

一つは、外貨預金が出来た人達です。

日本円で1億円くらいの外貨預金をして、ほとぼりが冷めて帰って来たら1000億に化けていたという話を、地元の銀行の頭取から聞きました。

本当かどうか、現地に行って調べました。

計算したら2017倍でした。

その生活実感からみると、私がお会いした大学教授は「十数年前に家を買ったお金で、今食料品を買おうとすると、黒パン1枚すら買えない」と言っておられました。

凄まじいインフレです。

どうやって生き延びたかという、いわゆる農地解放があったからです。

国に土地が欲しいと申請すると、1年か2年後に土地が貰えるのだそうです。

ただし郊外なので、そこに掘って小屋を建てて、作物を作って生き延びた。

モスクワ市民は今1100万人位いるそうですが、3分の2はそういう土地で作物を作って生き延びているわけです。

日本に伝わってくる時には、これは別荘という事になっていますが、実態はそういう事でした。

生き延びた最大の理由は、村落共同体が機能していたからでした。

自分の家庭を守るのは当たり前ですが、親戚を守る、或いは知人が困っていたら食べさせてあげる、というのが社会主義の時代では当たり前でした。

それが今でも生き残っている。

ただし資本主義に変わってしまったので、だんだん拝金主義が広がっています。

「働かざる者食うべからず」という考え方が広がってきたので、ロシアも又、危ないと思います。

ですから、今ロシアは地下経済がどんどん進んでいるそうです。

マフィアが広がって、麻薬ビジネスが広がった。

今までは収入の1割か2割位しか国家に申告をしていなかったのが、最近は政府がきつくなって、税理士と相談して何割申告するかを決めているそうです。

まともに申告すると、全部納めても足りないのだそうです。

拝金主義に毒されている国になったなと感じました。

それもこれも現地に出かけて行って、色々な方に話を聞いて実地に確認したものを、学者が集めている資料と照らし合わせをして、その結果、結論が出ました。

学者は文献が第一ですから、活字から追いかけます。

したがって間違っている資料でも、間違いを発見する事は大変です。

やはり実体験が必要です。

実体験をしてから、文献に当るのが良からうと思います。

ただし、文献にあたって、どうしても行動したいと思ってメラメラと燃え上がったら、動く事です。

動かない炎は偽物です。

メラメラと燃え上がる炎は、必ず行動が伴います。

陽明学はそういうものだと思っています。

今日は、民俗経済学の視点とロシアについてお話し致しました。

最後に、判断の基準の視点で、私の好きな言葉をお話します。

「切磋琢磨」です。

今あなたはどの程度のレベルなのかという事を、論語の中から解き明かしています。

一つの問題をずっと追いかけていれば、5年10年経てば必ず問題は解けます。

昨日今日考えただけでは、解けるはずがない。

全身全霊あげて10年20年30年・・・ずっと学び続け、研究し続けた人の言葉には勝てないと思います。

断言する事は、素晴らしい事です。

断言する言葉を一つ身に付ける事をお勧めします。

私が身に付けた断言する言葉は、論語の中の「利によりて行なえば、怨み多し」です。

これは沁み込みました。

事例を自分の中で体験して、実感して、なるほどと思い込んで進めております。

知識・見識・胆識、事上磨練、知行合一、碎啄同機・・・こういった言葉を大事に大事に玩味すると良いと思います。

そして一生涯通じて研究し、学んでいく。

このフォーラムの場でお互い学んでいって、世の中の時事評論が出来ると良いなと思います。

以上で本日の私の講話は終了にさせて戴きます。

有難うございました。